

かみまち議会だより GIKAI-Press



“すっかど” 直して 音色を未来へ

※関連記事は10ページ

● 9月定例会

- 台湾嘉義市との交流 P2
- 決算をチェック! P6
- 加美ing! 議員 P10
- 一般質問 町政を問う P12

議会中継はこちらから



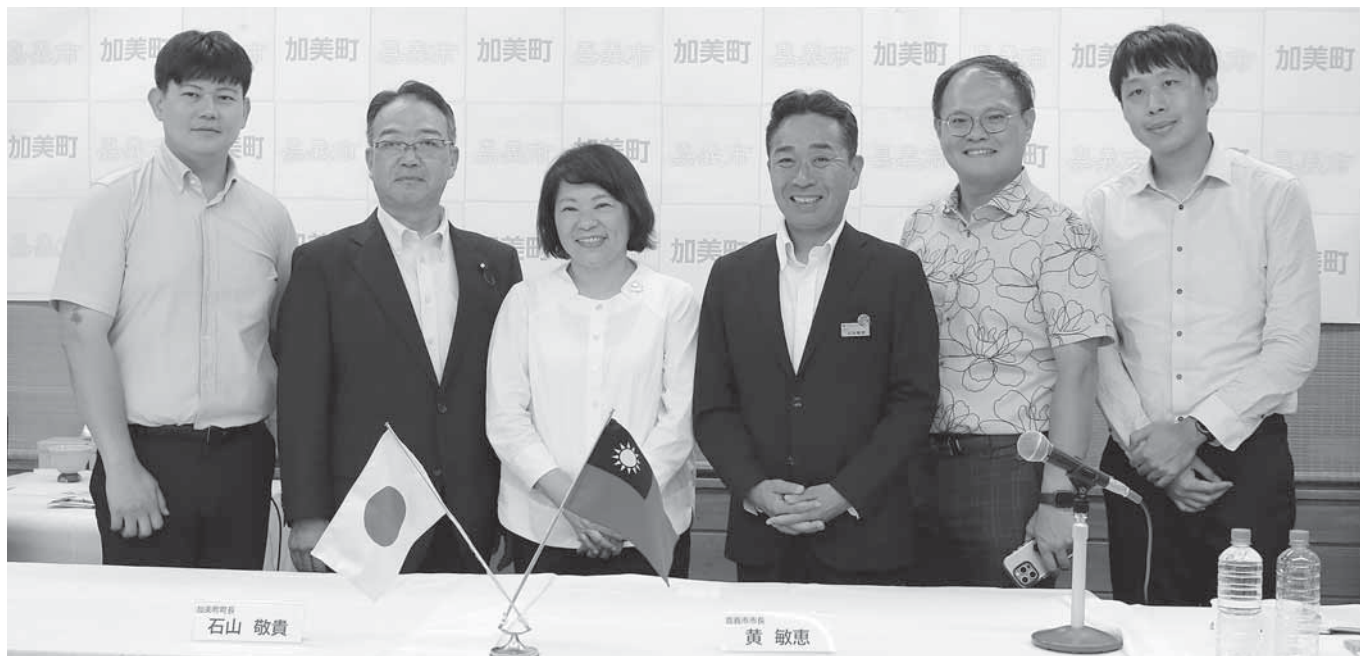
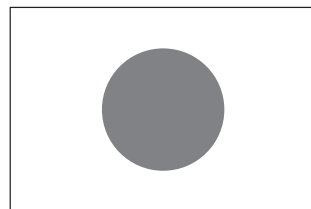
加美町議会映像配信

検索



<https://kami-town.stream.jfit.co.jp/>

の交流が本格化！



嘉義市とは？

自然・文化に恵まれた都市

嘉義市は台湾中南部に位置する自然景観に恵まれた豊かな歴史と文化が息づく都市です。

や文化遺産が多くあり、現在では観光施設として楽しむことができます。

野球が盛んであるほか、

人口は約26万人で、古くから農業を基盤とし、米をはじめとする農産物生産が盛んな地域でもあります。

市内には日本文化を色濃く残す歴史的な建築物

があります。文化・スポーツの都市としても知られています。

令和6年 交流がスタート

加美町が嘉義市を訪問

加美町では、農家所得

初訪問にもかかわらず

の向上を目的とした台湾への農産物などの輸出や文化交流のきっかけを

多くの幹部職員に出迎えられる、和やかな雰囲気の中で会談が行われました。

探っていたところ、本町

石山町長は、農業が盛んな嘉義市と「相互に交流

政策アドバイザー久保博

を重ねていきたい」と述べ、嘉義市側からは国際

和6年10月22日に石山町

バンドフェスティバルへの視察を含む再訪が提案

長と早坂忠幸議長（当時）が嘉義市役所へ表敬

訪問しました。

訪問しました。

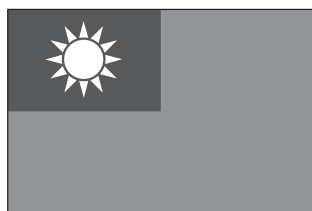
されました。



同年12月には2度目の訪問バンドフェスティバルにも招かれました



伝統と現代が融合した街並みを楽しめる嘉義市は、台湾の魅力をも存分に味わうことができ、台北や台南からのアクセスも良好なため多くの観光客が訪れます。



深まる友好の絆 台湾・嘉義市と

嘉義市訪問団が加美町へ

相互交流が着実に進展

今年の7月26日・27日、黄敏恵市長をはじめとする嘉義市訪問団が来町しました。

26日に催された歓迎会には、各種団体代表者などが出席し、大いに親睦を深めることができました。「火伏の虎舞」も披露され、黄市長からは「皆さんの温かいおもてなしに感動した。」と感謝の言葉をいただきました。

ドラゴンカヌー大会のゲストに

翌日27日のドラゴンカヌー大会には、なんと黄市長がスペシャルゲストとして登場。「加美町と嘉義市には永遠に続く友情がある！」との市長のあいさつに会場は大盛り上がり。また、嘉義市長賞を贈呈していただいたほか、ボートに乗ってはしゃぐ様子も見られ、加美町を存分に楽しまれたようでした。



ドラゴンカヌー開会式で黄市長を紹介



龍に目を書き入れてもらいました



ボートにつけて写真を撮る黄市長

意見交換会も開催

町内施設の見学後に行われた石山町長・味上議長との意見交換会では、観光を通じた人材交流、音楽や野球を通じた交流にも期待が寄せられ、和やかな雰囲気の中で友情を一層深めることができました。

今後も嘉義市と様々な形で嘉義市との関係を続けていきます。

みなかみ町に学ぶ台湾交流

8月29日、議会広報常任委員会の委員6人と議長で、群馬県みなかみ町を訪問し、議会広報作成についての意見交換のほか、台湾との交流事業の取り組みについて視察を行いました。

みなかみ町は自治体として台湾との交流事業のトップランナーであり、日本で初めて町職員として台北市に派遣された同町商工観光課の阿部真行課長補佐から、取り組みの経過や成果についての説明をいただきました。みなかみ町視察で得た知見を、議会としての立場から、今後の台湾との交流推進に活かしてまいります。



参考になる取り組みがたくさん

群馬県みなかみ町は、群馬県最北端に位置しており、山々にかこまれた水源の町。人口は約2万3千人で、平成の合併で誕生、山林面積が多いなど、加美町との共通点も多い。水上温泉郷や猿ヶ京温泉など「みなかみ十八湯」と総称される温泉群があり、台湾との交流を通じて、海外からの観光客が増加しており、加美町として学ぶべき点が多い。

未来に明るい兆し

9月 定例会

[本会議]

(9/9～11、19)

9/9 一般質問 4人
9/10 一般質問 4人
9/11 一般質問 1人
9/19 議案審議

[決算審査特別委員会]

(9/11、16～19)

9月定例会は、9日から19日までの11日間で開催され、9人の議員が町政について一般質問をしました。
議案審議では、決算審査特別委員会で審査した令和6年度各種会計決算10件の認定や、加美町乳児等通園支援事業の設備および運営に関する条例を議決したほか、令和7年度一般会計補正予算や人権擁護委員の諮問などの議案を審議し、原案のとおり可決しました。

定例会で審議した内容

報告	6件
条例制定	1件
契約の締結	2件
財産の売り払い	2件
補正予算	3件
決算認定	10件
諮問	1件

一般会計 決算額

歳入 148億8,821万円

歳出 142億7,531万円

全会計の歳入・歳出決算を

全会一致で認定

令和6年度 各特別会計の決算額

会計名		歳入額	歳出額
特別会計	国民健康保険事業	28億3,077万円	27億1,806万円
	後期高齢者医療	3億2,972万円	3億2,596万円
	介護保険	33億5,307万円	32億3,030万円
	介護サービス事業	726万円	518万円
	加美郡介護認定審査会	1,074万円	905万円
	霊園事業	399万円	104万円
	町営駐車場事業	227万円	222万円
下水道事業	収益的収支	10億97万円	9億6,196万円
	資本的収支※	5億3,443万円	8億2,018万円
水道事業	収益的収支	5億1,602万円	5億1,054万円
	資本的収支※	302万円	1億4,337万円

※資本的収支の不足額には、損益勘定留保資金や積立金などで補填しています。

監査意見書（抜粋）



代表監査委員
田中正志

期待が高まる年に

令和6年度は、第3次加美町総合計画や新庁舎基本設計の策定、台湾・嘉義市との交流事業、子ども食堂支援など新たな取組も始動し、町民生活に前向きな進展が見られることで、今後のまちづくりへの期待が高まる年となりました。

積極的な施策展開

また、人口減少に対応した移住定住施策や、地方創生インターンシップ

で訪れた学生が町内企業の課題解決に取り組むなど、新たな関係人口創出に向けた施策が積極的に展開されています。

物価高騰による赤字増

行財政改革集中期間4年目として、中新田保育所の民営化による施設維持管理経費の削減や、ふるさと納税での自主財源確保にも成果が見えますが、物価高騰や給与改定による人件費増加で新たな財政負担が生じ赤字幅も拡大しました。

効率的な行政運営を

今後も財政規律を遵守し、徹底した事業見直しとともに公共施設統廃合などを着実に進め、町民の福祉増進と効率的な行政運営に最大限の努力を求めます。

議会運営事業 議会・委員会等管理事業 庁費一般管理事業 総務管理事業 広報広聴事業 財政管理事業 公共施設等総合管理事業 地域交通確保対策事業 住民バス運行事業 地域振興対策事業 コミュニティ活動推進事業 住民共同参画推進事業 空き家等活動推進事業 国土利用計画策定事業 交通安全推進事業 地域防災対策事業 地域安全推進事業 協働のまちづくり推進事業 地づくりに関する事業 地域おこし協力隊支援事業 新庁舎移転事業 物産振興対策事業 地域生活支援事業 総合的対策事業 環境衛生事業 地産地消推進事業 農作物等生産対策事業 担い手確保・育成対策事業 地産地消交流推進事業 高齢者福祉事業 学校魅力化推進事業

物価・人件費高騰による赤字増も 積極施策で近

委員長報告（抜粋）



決算審査特別委員会
委員長
三浦 又英

行財政改革に一定の効果

令和6年度は、行財政改革集中期間の4年目として、継続した行政経費削減やふるさと納税による寄付金増加など自主財源確保の取り組み効果が見られました。

しかしながら、物価高騰や人件費上昇により一般財源の負担が増加し、赤字体質からの脱却には至っていません。引き続き行財政改革を着実に推進し、健全財政に努めるよう要望します。

決算審査では、特に若給付付型奨学金の給付資格について議論があったので、検討することを求めます。

今後とも住民満足度100%と町民の幸せの実現を目指し尽力願います。

賛成討論（抜粋）

近未来に明るい兆し

令和6年度は厳しい財政状況の中でも「枠配分方式・マイナスシーリング」を継続し、「聖域のない徹底した事業の見直し」により「政策効果の高い事業に転化する」といった予算編成で執行されました。

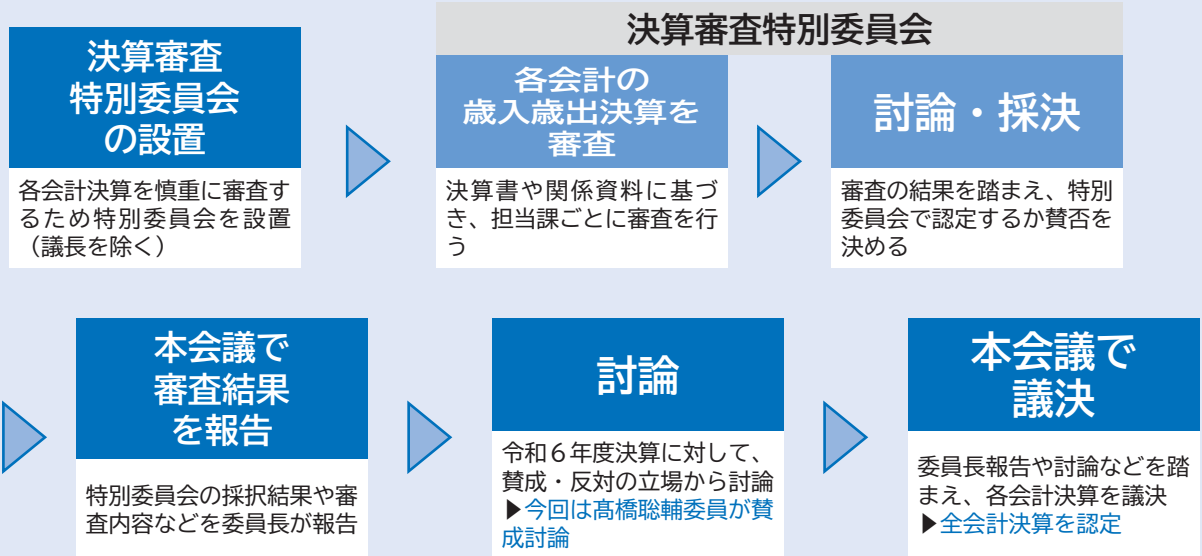
懸案事項であった利用自粛牧草の処理や、住民バスの西古川駅への直行便運行への道筋など、町民の生活に明るい兆しも見えつつある状況です。

さらに、台湾嘉義市との交流事業足掛かりや、加美町独自の「志教育」スイッチオンの開始など、近未来においても明かりを照らし出すような決算となりました。



高橋 聡輔 委員

決算審査の流れ



決算認定は起立採決。全員起立で全会計認定へ



令和6年度決算の詳しい内容は広報かみまち10月号を参照ください

令和6年度 決算をチェック

一般会計歳出 142億7,531万円

(対前年 4億2,908万円 増額)

議長以外のすべての議員で構成される決算審査特別委員会では、担当課長からの概要説明の後、細部にわたり質疑し担当職員からも説明を受け、慎重に審査しました。

その中で、多くの委員が注目し、質疑した事業・決算について、議員（広報委員）の意見や考察を含めて紹介します。



←決算審査特別委員会の録画映像は加美町ホームページからご覧いただけます。

新庁舎整備事業

決算額 3,742万円



議会是这样見る！

令和10年度に完成予定の新庁舎建設事業において令和6年度は基本設計案の審議を行った。また、設計者主催による町民29人で構成される町民ワークショップは3回実施され、主として新庁舎の町民スペースの利用について話し合いが行われた。

経費は適切か、パブリックコメントは実施設計に反映されたかなど様々な視点から見届けていきたい。

公共施設等総合管理事業

決算額 111万円



議会是这样見る！

公共施設など個別施設計画に基づく削減目標2,000㎡を大きく下回り、譲渡施設24ヶ所のほとんどを町が管理している現状にある。

令和6年度中に除却した施設は田代キャンプ場1ヶ所にとどまり、達成率は30%未満となった。

計画の速やかな執行に期待したい。

加美病院負担金

決算額 3億2,312万円

議会是这样見る！

令和6年度も3億円を超える負担金となり（加美町の負担割合は62.13%）、町財政へ大きな影響を及ぼしている。

経営改善の鍵は入院患者・病床使用率の増加にあるとされ、今後、外部の専門家・有識者10人程度で構成する経営形態検討第三者委員会を設置するという。

加美郡にとって唯一の入院施設に対する第三者委員会の見解に注視していきたい。



グリーンツーリズムの推進

決算額 158万円

議会是这样見る！

令和6年度は県内の学校6件、インバウンド1件など、のべ671人を受け入れた。しかしコロナ禍の影響や受け入れ先農家の高齢化により訪問者は昨年の半数程度にとどまり、民泊の件数も少なくなっている。

令和8年度から観光まちづくり協会へ移管となるが、他の観光施策との連携など新たな取組に期待したい。



部活動地域展開推進事業

決算額 3万3,000円

議会是这样見る！

部活動の地域移行が令和8年度に実施される現在、スポーツ少年団・地域スポーツクラブとの話し合いが進行中という。指導者数確保は充分とのことだが、教員・PTAとの意見交換会を開き、スピード感を持って加美町の子どもたちを育てるといふ共通認識のもと、推進強化を望む。



9月定例会では、令和6年度各種会計決算が全会一致で認定されたほか、新設条例の制定、契約締結、財産の売払い、人権擁護委員の諮問などについての審議を行いました。

議案 審議



多様な働き方やライフスタイルを支援

こども誰でも通園制度（加美町乳児等通園支援事業）

問 利用にあたっての申請方法・料金は？

答 町（こども家庭課）の窓口利用申請を行います。利用認定後、利用を希望する施設で面談を行い、利用の予約を行います。また、利用料金はこども一人あたり1時間300円程度です。

保護者の就労要件を問わず月10時間までの利用可能枠の中で、時間単位で保育所などに預けられる新たな制度です。全てのこどもの育ちの応援・子育て支援の強化を目的に創設されました。

生後6ヶ月から満3歳未満で保育所などに通っていないこどもが対象で、令和8年度から全国で実施されるため、本定例会で基準を定める条例の制定を議決しました。

日照橋ほか3橋修繕工事

橋梁長寿命化修繕計画に基づき、日照橋、新坂橋、矢越1号橋、小野田焼橋の4橋について修繕工事を行うものです。

指名競争入札の落札業者と、塗装塗り替えや伸縮継ぎ手工、断面補修工などを行う工事請負契約の締結を議決しました。工期は令和8年3月31日までです。



令和10年度まで全34橋を修繕する計画であり、本工事26橋目となる

町有林立木の売り払い

植栽してから55年以上が経過し、伐採時期を迎えた町有林を売り払うものです。

事業箇所は中新田地区のふれあいの森公園パークゴルフ場西側の町有林で、面積約16ヘクタールの杉1万2,653本を2,420万円で売却します。



伐って植える森林の更新サイクル

人権擁護委員の推薦

【新任】
鈴木 文也 さん
(南町)



現在欠員となっている人権擁護委員に、鈴木文也さんを推薦する答申を行いました。

任期は令和8年1月1日から3年間です。

【経歴】

平成元年より教員を務め、七ヶ浜町立向洋中学校、大崎市立川渡小学校、古川中学校の校長を歴任。平成31年3月に退職され、現在はNPO法人かみジョイで活躍されています。

人権擁護委員とは…

法務大臣より委嘱され、地域住民の人権相談への対応や、人権問題の啓発活動などを行います。

補正 予算

9月定例会では、加美郡保健医療行政事務組合負担金やバツハホールパイプオルガン修繕に係る経費など、歳入歳出にそれぞれ1億9,856万5千円を追加し、総額153億4,911万3千円とする一般会計補正予算を原案のとおり可決しました。

一般会計補正予算

主な内容		補正額
歳入	地方交付税	5,173万円減
	財政調整基金繰入金	1億1,000万円増
	繰越金	8,891万円増
歳出	加美郡保健医療福祉行政事務組合負担金	9,711万円増
	地域観光魅力向上事業費	775万円増
	中新田文化会館パイプオルガン修繕工事	1,436万円増
	鳴瀬川総合開発事業基金積立金	1,689万円増
債務負担行為	健康デジタルアプリ導入（令和8年度～10年度）	2,850万円増

Pick UP1

Pick UP2

Pick UP3

債務負担行為とは…

将来にわたる支出義務をあらかじめ確定させるための制度

Pick UP2 「“すっかど” 直して」100年先まで♪

●パイプオルガン修繕工事 1,436万円

事業の主な内容

バツハホールの象徴、パイプオルガンの大規模な修繕工事を行う事業です。

設置されてから41年が経過。平成13年に改修工事をしてからでも24年が経過していることから、大規模な修繕工事を行うこととなりました。

国内屈指の音響を誇るバツハホールは、音楽家・音楽愛好家だけのものではなく、加美町の貴重な観光資源でもあります。

今回の修繕により100年先まで、その音色を奏でてくれることでしょう。

📄 [パイプオルガン修繕について詳細は次ページ「加美ing!議員」を参照ください。](#)

Pick UP1 観光地としての魅力向上に

●地域観光魅力向上事業 775万円

事業の主な内容

国の採択に伴い、観光ガイド・インストラクターの養成講座業務委託（162万8千円）、旅行コンテンツ商品造成業務委託（611万8千円）を行うものです。

既存の観光資源におもてなしを加え、地域資源を生かした体験プログラムの開発・商品化により、新たな客層の開拓やインバウンドなど交流人口の拡大、さらには観光業の雇用拡大も期待できます。



8月には加美町の林道を舞台に初のグラベル大会が開催。今後も地域資源の活用に期待大

@nobuhikotanabe @gcyakurai

Pick UP3 健康増進のための新たな取り組み

●健康デジタルアプリ導入

債務負担設定限度額 2,850万円

事業の主な内容



ゴミ拾いをしながらウォーキングで健康増進

町民に運動習慣の定着を促進することで健康増進を図り、医療費削減効果を目指して導入するものです。

運動状況（主に歩数）をスマホに記録し、その達成に応じてポイント付

与・特典が提供されます。

なお本事業は令和8年度からの事業ですが、補助金（新しい地域経済・生活環境創生交付金）申請前に業者選定を行う必要があることから、債務負担行為を認めたものです。

町や関係団体から案内のあった行事などに参加し、体感したことを議会や議員の目線でご紹介します。

調査編

パイプオルガン修繕工事

～音色を未来へ～



インタビューに対応いただいたバツハホール館長と広報委員会のメンバー

修繕工事のために9月定例会で1,436万円の補正予算を計上した中新田バツハホールのパイプオルガンについて、その魅力と特徴をバツハホール館長から伺いました。

問 パイプオルガンに接したことがない町民も多いと思います。特徴を教えてください。

—バツハホールのパイプオルガンは2,245本のパイプ



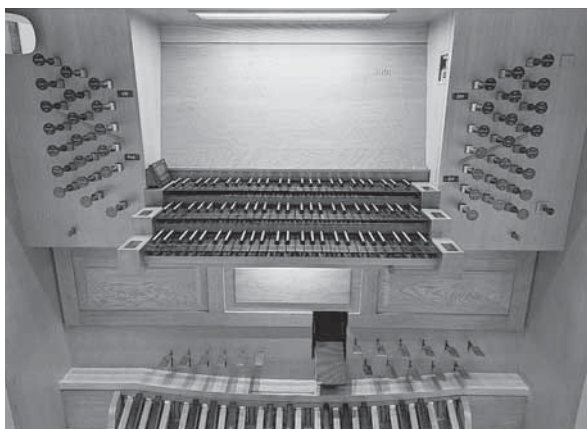
普段は見る事ができない、オルガン内側のパイプ

を有し、東北有数の大きさを誇ります。パイプは小指サイズから5.5mまで幅広く、裏側のコンプレッサーから空気を送ります。手鍵盤が3つ、足鍵盤が1つあり、鍵盤を押すことでパイプの弁が開き、音が出る仕組みです。「音栓」と呼ばれる器具を操作することで多

問 今回の修繕の目的を教えてください。

—設置から41年が経過し、音漏れなどが発生しています。今後末永く音色を届けるため、腐食部や記録機能用デジタル基盤の交換と長寿命化を行います。平成13年には耐震補強を行い、2011年の東日本大震災にも耐えることができました。

様な音色を奏できます。また、記憶機能も付いており、瞬時に設定を呼び出すこともできます。



4つの鍵盤と音栓

問 どのような方に利用されていますか。町民が聞ける機会はあるか。

—全国的にも珍しい公設のパイプオルガンとして、毎週火曜日にはオルガン教室が開催されており、県内外から練習に参加されています。無料の発表会も開催されているほか、有料のコンサートを年1～2回開催しています。今後、身近に感じてもらえるイベントも検討していきますので、ぜひ関心を持っていただければと思います。

子どもたちが加美町の魅力を再発見

加美町志教育 “スイッチオン！” 町民ライブ



「たくさん挑戦して、たくさん失敗して、どんどん笑いに変えていこう」が、コメディアンぜんじろう氏の教え

中新田バッハホールでお笑いタレントぜんじろう氏プロデュースのもと、今年で2回目となる小中学生による町民向けライブが開催されました。

今回は8・9月にぜんじろう氏が町内の全小中学校を訪問し、「笑いの本質」についての授業を行い、発表者を呼びかけました。

当日は、単独、コンビ、チームの計10組の参加者が、用意した道具や衣装、笑いのネタを披露しながら加美町の良いところを紹介しました。審査員を務めたお笑いコンビのバクコメも出演者の堂々とした姿に賞賛のコメントを送り、自分たちのライブでも早速ネタをオマージュする一幕もありました。

加美町の大切な宝である子どもたちが安心して成長できるように議会においても教育支援など協議してまいります。

10/13

体験しながら健康について再発見

かみフェスリバーサイドで楽しもう

スポーツの日、鳴瀬川カヌーレーシング競技場を会場に「かみフェス」が開催されました。カヌーやサッカーなどの体験コーナー、インストラクターによるヨガやボディコンバット・わくわく体操、健康チェックができるブースなど多

くの方が楽しみながら汗を流していました。企画にはジュニアリーダーや高校生も関わっており、参加者はまぶしい笑顔を見せていました。

町の皆さんが健康維持に高い意識を持てるように、議会でも協議してまいります。



晴天の下、大人数でのボディコンバット

10/8

学校とのパートナーシップを強化

加美農業高校と包括連携協定

地域社会の活性化と持続可能なまちづくりの推進を目的に、町と加美農業高校との間で包括連携協定を締結しました。

地域の農業を支える担い手となり得る人材を輩出する同校と連携し、ともに様々な地域課題に取り組むことで生徒たちの

資質を高め、農業のみならず多くの分野で活躍できる人材の育成を強化していきます。

地域の衰退を防ぎ、新しい風を吹き込むため、地域・学校・行政のパートナーシップに議会でも最大限の支援をしてまいります。



加美農業高校の100周年記念館で行われた締結式

町政を問う

9人が質問

似顔絵を描いてくれたおともだち

加美町立認定こども園

みやざき園
きりん組



一般質問目次



通告1番 早坂 伊佐雄 (はやさか いさお)

学力向上 13ページ

指導主事を減らす考えは



通告6番 伊藤 淳 (いとう じゅん)

空き家対策 15ページ

どうする 空き家 空き店舗



通告2番 伊藤 由子 (いとう ゆうこ)

庁舎建設 13ページ

持続可能な設計とは



通告7番 今野 清人 (こんの きよと)

上下水道 16ページ

水道管の現状と老朽化対策は



通告3番 高橋 聡輔 (たかはし そうすけ)

社会参加 14ページ

男性参画増の推進策は



通告8番 田中 草太 (たなか そうた)

子育て支援 16ページ

子育てしたいまちを目指そう



通告4番 早坂 潔 (はやさか きよし)

高齢者福祉 14ページ

介護職員確保の支援策は



通告9番 木村 哲夫 (きむら てつお)

地域振興費 17ページ

見直し時期の目標は



通告5番 佐藤 圭介 (さとう けいすけ)

拉致問題 15ページ

啓発週間の活動強化を

●一般質問…議員が、町への政策提言や町の課題などについて、町に質問すること。
(掲載しているQRコード(議員写真下)で、録画映像を視聴できます。)

学力向上

指導主事を減らす考えは

教育長

学校数の減と共に検討

問

県内21町村の指導主事の派遣状況は。

教育総務課

2人派遣されているのは加美町だけ。

1人派遣が7自治体であり、派遣なしが13自治体である。

問

県から派遣されている指導主事の人数は県の負担なのか。

教育総務課

県から派遣されている指導主事2人の人件費は町負担である。

指導主事とは…

都道府県や市町村の教育委員会に置かれる専門職員のこと、学校の教員に対して助言と指導を行う役割を担います。



真剣に授業を受ける児童たち

問

以前は加美町では指導主事が1人だったと思うが、2人にした理由は。

県では指導主事を減らす流れとなっており、今後は市町村でその役割を担っていく必要があるため。

質問のねらい

将来の加美町を担う子どもたちのために手厚くすることも理解できるが、もっと効果が上がることを検討すべき。



早坂伊佐雄 議員



録画映像

問

指導主事を置いていない町村もあることから、1人に減らしたうえで、経験豊富な元教員を指導員として配置してはどうか。

教育長

今年度から学力向上指導員として2人の元教員を配置した。成果ができれば継続したい。指導主事の配置については、今後学校数が減っていくことに合わせて検討していきたい。

その他の質問

- 鳥獣被害対策
- 入札制度

庁舎建設

持続可能な設計とは

庁舎整備室長

実施設計で今、検討中

問

パブリックコメントでは、持続可能な設計のために、ガラスウォール・大ひさしについての意見が多かったが。

庁舎整備室長

壁面のガラス面積は40%程度の比率を目途としている。ひさしには建物の耐久性向上に効果がある。ガラス面積は建設費用などを含めて現在実施設計の中で検討している。

問

町民スペースについての具体的な意見があったが、広さの変更はないのか。

庁舎整備室長

税の申告・期日前投票などに必要な面積であり、町民共用スペースの規模の変更はない。ギャラリィとしての使用も検討していく。

問

当初の方針通り、コンパクトでシンプルに変わりはないか。

庁舎整備室長

今回の設計では鉄骨造りで、シンプルな工法というふうに考えている。



町民スペースについて意見交換中

質問のねらい

建設委員会の付帯意見を尊重し、パブリックコメントにあった建設コスト・財政影響を軽減するようコンパクトな庁舎建設にすべき。



伊藤 由子 議員



録画映像

問

新庁舎建設の労働形態について「ICT活用・週休二日などの条件を求めない」と考えているようだが。

庁舎整備室長

近年の労働者不足から、ICT等を活用し省力化を図るための考え方であるが、義務ではないため、今のところ求める考えはない。週休2日については、労務費の割増も考えられるため積算の最終段階で考慮していきたい。

その他の質問

- こども園・小中学校における猛暑日の健康管理

社会参画

男性参画増の推進策は

町長

経験を活かした活動を推進



取り扱う職種を広げ、より多くの男性の参画を期待したい

問 加美町は2035年に高齢化率が43%となる見込みである。高齢者の知識や技術を活かした社会参画を促す具体的な施策は。

町長 特に男性の社会参画が課題である。皆さんが持っているスキルや技術を活かした仕事に近いような形で社会参画してもらうのが望ましいと考える。

問

シルバー人材センターの仕事だけでは職種が狭く感じるため、取り扱う仕事内容を工夫するべきでは。また加美町には人材バンクがあるが活用されていないのではないか。

町長

シルバー人材センターとも様々意見交換してきたが、制度上難しい所もある。今後人材バンクも含め、様々な職種を提供できるように、マッチングを図る体制の構築が必要である。

質問のねらい

高齢化率上昇をプラスにとらえ、経験とスキルを活かした社会参画をしていただくことで健康寿命の延伸につなげるため。



高橋 聡輔 議員



録画映像

問

現在、健康維持のために家庭菜園やものづくりをしている人に対しての支援策はできないか。

町長

金銭的な支援については今後検討していきたい。

他自治体では、「1坪菜園」を推奨し、直売所に出荷することにより収益を上げつつ医療費の抑制にもつながるといった成功事例もある。やりがいのある仕事を男女ともにもてるような仕組みづくりを考えたい。

その他の質問

●「加美町・観光元年」のこれまでの検証

高齢者福祉

介護職員確保の支援策は

町長

県の情報を提供し支援

問

介護職員の人材確保に向けての支援策と離職防止のサポート体制の状況は。

町長

人材不足は喫緊の課題である。町内事業所との情報交換会を行い、県の情報などを提供し継続した支援をしていきたい。

問

県が行っている外国人受け入れ事業がある。加美町で昨年度実績はなかったが、その要因は。

町長 事前の意向調査では町内1事業者の申し込みがあったが、受け入れには繋がらなかった。情報提供だけでなくサポートも考えたい。



職員のおかげで安心に過ごせます

問

各事業所と連携を取る中で、どのような課題が多く挙がっているのか。

町長

「若い人の応募がない・定着率が低い・外国人受け入れのやり方がわからない」といった声が多かった。

問

県では介護職員のための相談窓口を開設している。この取組の周知を強化することや、町独自の相談会を検討しているのか。

町長

県では人材育成と定着を促進する取組を行う仕組みがある。町内事業所に周知を徹底して支援につなげたい。

質問のねらい

全国で問題になっている介護職員の不足は我が町でも例外ではない。事業所への支援策と離職防止に対する取組を伺う。



早坂 潔 議員



録画映像

その他の質問

●イベント・災害時用のトイレカー導入
●町営住宅の申し込み

拉致問題

※1 啓発週間の活動強化を

町長 地域、関連団体と連携し活動

問 北朝鮮人権法^{※3}では、地方公共団体の責務を「国民世論の啓発を図るよう努める」としている。加美町はどんな活動をしてきたか。

町長 これまで関心高く取り組んできた。昨年の啓発週間には、本庁舎ロビーにおいて写真パネルの展示を行うなど啓発に努めている。

問 国会議員で組織される「拉致議連」へ昨年提出された署名簿の内、加美町の署名数は30筆との報道があった。広報紙やホームページでの周知を強化することなどをお願いしたい。

町長 被害者、家族とも年に高齢となっている。早急に解決しなければならぬとの認識である。署名活動も含めて今後考えていきたい。

問 大崎市では12月定例会において、執行部全員がブルーリボンバッジ^{※4}を着用している。加美町も做ってみては。

町長 込められた思いに共感している。具体的な提案として参考にしたい。



北朝鮮に向けたラジオ番組の収録に参加する石山町長（写真右から2番目）



佐藤 圭介 議員



録画映像

質問のねらい

「特定失踪者」^{※2}に加美町出身者が含まれていることから、本町においてはより強力な啓発活動が展開されてしかるべきではないか。

※1 北朝鮮人権侵害問題啓発週間。毎年12月10日から16日まで。

※2 政府認定の拉致被害者の他、北朝鮮による拉致の可能性が高いとされる方々。「特定失踪者問題調査会」には470名のリストがあり、昭和43年に東京で失踪した早坂勝男さん（当時24歳）が含まれている。

※3 「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」の略称

※4 拉致被害者の救出を願う意思を示すシンボル。日本と北朝鮮を隔てる「海の青」と、被害者と家族を唯一結ぶ「空の青」という二つの意味が込められている。

その他の質問

● グリーンツーリズム事業

空き家対策

どうする 空き家 空き店舗

ひと・いごと推進課長

次の段階に向けて検討

問 景観美観が損なわれることに端を発した、これまでの実態調査や対策がもたらした効果や実績は。

町長 無料相談の実施をきっかけに相続の手続きや空き家バンクへの登録、解体につながるなど一定の成果を挙げている。

問 空き家になった要因の把握、家主との連絡体制の構築、景観上の問題解決の進捗状況はどうか。

町長 管理不全空き家に関して、迅速に所有者や現場の調査を進めている。

問 空き店舗対策事業の効果およびその実績は。

町長 中新田地区商店街活性化委員会との意見交換を踏まえ、空き店舗の改修事業を試みたが、建築基準法の改正や資材の高騰などの理由から、事業の見直しが必要と判断し、一旦事業を休止している。

質問のねらい

持ち主の協力がなないと、なかなか進まない空き家、空き店舗の対策。特に景観美観が損なわれている町に人は来ないという視点。

問 空き家対策特別措置法の制度を活用した助言・指導を行い、空き家を放置することで生じる不利益を多くの町民に知ってもらうことが必要ではないか。

町長 他自治体の先進事例などを調査し、解体の代執行や固定資産税の軽減解除など次の段階の取組に向けて検討している。

その他の質問

● なし



伊藤 淳 議員



録画映像

水道の現状

水道管の現状と老朽化対策は

町長

更新計画を現在策定中

問 耐用年数を過ぎた水道管の割合が70%を超えている要因は。

上水道課長 他の市町村では数々の地震のたびに壊れた水道管の敷設替えをしているものと推測されるが、加美町は地盤が強く、水道管自体が壊れるケースが少なかったためと考えられる。

問 40年以上を経過した水道管を使用することで、破損の恐れや水質に悪影響を及ぼすことはないのか。

上水道課長 耐用年数とは、資産価値が帳簿上消滅する会計処理上の年数のことである。ダクタイル鑄鉄管は、日本水道協会によると100年の使用が可能とされている。

問 老朽水道管の更新について国から補助事業などは示されているのか。

上水道課長 国ではまだ予算化されていないが、令和8年度に補助金を拡大する方針とのことである。なお、町ではこの交付金の要件となる水道事業の更新計画を現在策定中である。



加美町には誇るべき豊かな水資源が

質問のねらい

加美町は耐用年数40年を超えた水道管の割合が70.89%と高いことが一部週刊誌で報じられた。町の考えを問う。



今野 清人 議員



録画映像

問 加美町の水・水道に関しての町長の所見は。

町長 宮崎地区の水源キタイ沼の水は美味しいうことが分かってきた。これは、宮崎また加美町の大きなアピールポイントとなってくる。

加美町は水源の町であり、住民や地域、広い意味では県民の皆様のため、しっかりと加美の水を守っていく不断の努力を約束する。

その他の質問

● 空き家の適切な管理

子育て支援

子育てしたいまちを目指そう

町長

基盤をつくり、知恵を絞る

問 加美町の出生率は全国平均を大きく下回っており、人口ビジョンの目標とも大きく離れている。町の取り組みの状況は。

町長 第3期加美町子ども・子育て支援事業計画に基づき、まずは基盤を整えている段階。ここから知恵のしぼりどころである。

問 地域全体で子どもたちを育むことが重要だと考える。子ども会・育成会の状況は。

教育長 コロナ禍などの影響もあり、子ども会加入率は39%まで減少している。育成会とも連携し、今の時代に合った子ども会の在り方を探っていききたい。

問 アンケートで「子どもたちの遊び場」が欲しいのとの声があった。整備の検討状況は。

町長 要望は認知しており、他自治体の視察も行っている。観光施設にもなり得ると考えるが、予算の問題もあるので慎重に検討をしていきたい。



加美町で子どもを育てたいと思われるために

質問のねらい

加美町の出生数はかなり厳しい状況。「加美で子育てをしたい」「加美で育つてよかった」と思われる町にするため、質問を行った。



田中 卓太 議員



録画映像

問 地域のつながりが減っているなかで、令和8年度に新たに始まる「ファミリーサポート事業」への地域の関わり方は。

家庭長 ともみ 民生委員さんや婦人会の役員会などでの説明の場で、いろいろな意見・提案をいただきながら進めている。

その他の質問

● DXの推進による労働生産性の改善

地域振興費

見直し時期の目標は

総務課長

令和9年4月の当初に反映

問

地域振興費の私案を作成した。提案内容として、全行政区共通10万6,000円（交付金の54%）に、班数×5,000円（交付金の25%）を加え、残りの21%を世帯割や人口割で配分した。

世帯割の増加率で上位は、下区（146.3%）、あさひ、北区、岡町、菜切谷新田で、増加額で上位は、下区（374.6円）、中区、北区、下野目、上狼塚となった。

世帯割の減少率が大きいのは、東米泉（32.8%減少）、門沢、東川北、北鹿原、寒風沢の順で、減少額が大きいのは、寒風沢（5,600円減少）、鷺沢、東米泉、門沢、赤坂原となった。しかし、1世帯

当たり交付額は、一番増した下区は1,184円、一番減少した東米泉は4,870円、寒風沢は約1万4,000円である。この私案結果をどのように考えるか。

総務課長

具体的なデータを示していただきありがたい。見直しを進める際のたたき台として活用し、不公平感のなくなるような改善策を示しながら地域のコンセンサスを得ていきたい。

問

総務課長

改善に着手する具体的な時期は。来年の10月までに内容は固めて、令和9年度の当初予算に反映させたい。

質問のねらい

行政区長からも地域振興交付金の見直しを求める声が多い。アンケート結果や提案した「私案」を参考に早急な対応を求める。



木村 哲夫 議員



録画映像



木村哲夫議員作成の地方振興費の「私案」は、加美町ホームページ掲載の「令和7年加美町議会 第3回定例会 傍聴席資料」からご覧いただけます。

その他の質問

● 石山町政1期目の折り返し

広報研修

8月28日

全国町村議会議長会「議会広報研修会」



広報編集に携わる町村議員が全国から参加

渋谷公会堂を会場として講しました。

た全国町村議会議長会主催の「議会広報研修会」に広報編集委員のメンバーで参加しました。

全国各地から多くの町村議員が参加しており、紙面に深みを出すためのインタビュ手法やスマートフォンによる動画作成技術などの研修を受

講しました。インタビュのコツとして、読者にどのような行動変容を促したいかまで考えて行うべきであることなど、新たな視点を学ぶことができました。この研修の成果をこれからの議会広報紙に活かしていけますのでご期待ください！

県北6町議員研修会

10月2日

議会改革への見識を深めるために

宮城県北の6町で構成する「県北議会議長会」の研修会を中新田バツハホールで開催しました。

今年は加美町議会が当番町を務め、講師に政治学を専門とする拓殖大学の河村和徳教授をお招きし、「議会の現状と議会改革」と題した講演をいただきました。

宮城県の6町で構成する「県北議会議長会」の研修会を中新田バツハホールで開催しました。今年は加美町議会が当番町を務め、講師に政治学を専門とする拓殖大学の河村和徳教授をお招きし、「議会の現状と議会改革」と題した講演をいただきました。

公正で開かれたよりよい議会を実現するため、これからも研鑽に努めて参ります。

軽快でわかりやすい河村教授の講演



加美町議会 議員会 普通救命講習

命に関わる場面での 正しい知識と行動のために

10月20日、加美町議会議員全員で構成する議員会で、議員の資質向上に向けた活動の一環として、普通救命の研修会を開催しました。

加美消防署西部分署より、川村緑朋主査と早坂成記主査の2人を講師としてお招きし、応急手当の基礎知識を確認したほか、胸骨圧迫と人工呼吸の実践、AED（自動体外除細動器）の使い方の訓練をしました。

人命に関わる場面では、正しい知識と行動が必要です。AEDを使う必要に迫られたとき、自信を持って救助措置を取れるよう、皆さんも改めてAEDの使い方など確認されてみてはいかがでしょうか。



普段からAEDの設置場所を把握して置くことが重要です。「日本全国AEDマップ」で最寄りのAEDを確認しましょう。

注意!

加美町クマ出没非常事態宣言を発令

10月9日、石山町長より緊急に、議会・行政区長・猟友会や関係団体の代表者が招集され、対策本部の設置がなされました。

町内の児童・生徒など、町民はもとより、今後の観光シーズンを迎えるにあたり、来町されるお客様にも人的被害を出すことのないよう関係期間と連携して対応します。

本部会議では、「加美町クマ出没非常事態宣言（期間）

令和7年10月9日～11月30日」が発令され、町民生活におよぼす影響や、果樹など収穫されていない樹木への対応、猟友会における緊急銃猟も含めたマニュアル作成などについての意見が交わされました。

なお、鳥獣被害対策に関しては9月定例会の一般質問でも議論されており、今後の予算措置など議会で検討してまいります。



各団体間で情報を共有。被害が出ることをのらないよう対策を協議します



町ではクマ対策を呼び掛けたチラシを毎戸配布しています。十分な注意をお願いします。

議会のうごき

加美町議会の主な活動を報告します

8月
～10月

①



ハラスメント加害者にならないための心構えを再認識
(利府町文化交流センター)

②



多くの住民に読まれる広報紙
の作り方についての全国研修
(渋谷公会堂)

月 日	本会議・委員会など	内 容
8月	4日 宮城県町村議会議員 会長 議員 セミナー	議員活動におけるハラスメント対策を研修 ①
	19日 全 員 協 議 会	加美町健康デジタルアプリ導入などを協議
	27日 議 会 運 営 委 員 会	第3回定例会の運営についてなどを協議
	28～29日 議 会 広 報 常 任 委 員 会	視察研修（全国議長会広報研修・群馬県みなかみ町） ⇒P3 ②
9月	9～19日 第 3 回 定 例 会	一般質問・議案審議・令和6年度決算認定など
10月	2日 県北地方議会議員 研 修 会 ・ 交 流 会	議会改革の現状と課題についての研修など ⇒P17
	6日 教 育 民 生 常 任 委 員 会	教育関係諸課題などを調査
	8日 視 察 受 け 入 れ	新潟県阿賀野市（廃校利活用について）
	14日 視 察 受 け 入 れ	宮城県山元町（議員なり手不足への取り組み）
	20日 議 会 議 員 会	普通救命講習を受講
	28～30日 総 務 産 業 常 任 委 員 会	視察研修（宮崎県新富町ほか）

※議会だよりの編集のため、議会広報常任委員会を5回（9/9、17、10/8、14、21）開催しました。

議会傍聴について



傍聴の受付は「小野田支所3階」にて行います。
申請書に住所・氏名・年齢などをご記入ください。
一般傍聴席は「19席のみ」となります。
満席時には、1階会議室で生中継を視聴できます。

インターネットで映像配信しています▶



傍聴・視聴された方（延べ人数）

会 議	傍聴者人数		議会中継(LIVE) アクセス件数
	男性	女性	
9月定例会	28	20	2,071

次回の定例会は

12月中旬

から開催します

議会だよりへ一言

議会だより88号（令和7年2月1日発行）に
対する議会だよりモニターからのご意見・ご感想
を紹介します。

モニター

〈特集 町議会議員選挙〉

立候補の条件や選挙費用の例など、若い
人にも知ってほしい情報がよくまとまって
いる。

広報
委員会

これから未来を担う多くの若い方にも手
に取ってもらえるような紙面づくりを心が
けていきます。

視察受け入れ

10/14 宮城県山元町議会



議員報酬改定など、
議員のなり手不足
解消への取り組み
についての視察を
受け入れました。



～ 共同作業で美味しい米づくり ～

中新田・羽場



みんなで花植え

今後は高齢化が進む中、この地区の圃場整備事業が一年でも早く実行されることとが一同の願いです。

羽場地区は26世帯の小さな集落です。羽場には「羽場天満宮」があります。四月には「菅原道真公 例大祭」を、集落を挙げて賑々しく開催しています。この時期には集落内のみならず町外からの参拝も多くあります。また、毎年仙台の人から絵馬が奉納されるなど、知る人ぞ知る学問の神様として認知されていることは集落にとって大きな誇りです。



佐藤 秀雄 区長

世帯数 26世帯
人口 83人
(令和7年9月末現在)

われらが仲間

♪ 家庭の味から創作鍋まで 多彩な鍋料理フェス♪ 鍋まつり実行委員会



美味しさに感動! 絶品鍋料理!!

主催: 鍋まつり実行委員会
開催日時: 令和7年12月7日(日)
午前10時30分～午後1時30分
開催場所: 中新田花楽小路商店街
連絡先: 0229-63-2734
(加美商工会内)

第24回を迎える「うめえがすと鍋まつりin加美」が、今年は12月7日(日)に開催されます。

これまで2月11日の開催が恒例でしたが、今回から12月第1週への変更を決定しました。変更の背景には、2月の厳しい気象条件があります。毎年積雪が多く除雪作業の人員確保が困難で、会場整備や来場者の安全確保に支障をきたしていました。加えて強風の日も多く、これらが運営上の大きな課題となっていました。12月開催により、来場者の交通への影響も軽減できると期待しています。

当日はキムチ鍋やベコ鍋、雑煮鍋など、バラエティ豊かな鍋料理が出店予定です。各種団体の協力のもと、地域産業の活気と賑わいを取り戻し、加美町の魅力を町内外に広くPRします。温かい鍋を囲みながら、地域のにぎわい創出と活性化に向けた一日となることでしょう。

皆さんのご来場をお待ちしています。

委員の一言

10月も半ば過ぎ、山沿いの田圃も稲刈りが殆ど終わっています。

今季は猛暑日が続いたにも関わらず品質の良い新米が収穫されているようです。

しかし、春には備蓄米騒動がありました。国の備蓄米の量・米作り農家の事情・国の食料自給率が38%台であることなどの不安が全国に一気に広がりました。かつて、家庭での役割分業を指す「あなた作る人」「私食べる人」という言葉が流行しましたが、食べる側が、国の食料事情に関心を寄せるきっかけになったのではないのでしょうか。

(伊藤 由子)

議会広報常任委員会

編集委員

委員長 高橋 聡輔
副委員長 伊藤 由子
委員 佐藤 圭介
委員 今野 清人
委員 早坂 潔
委員 田中 草太